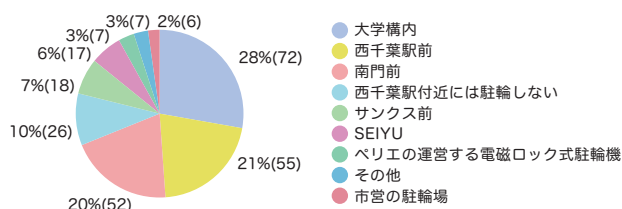


千葉大学では、2008年度より大学周辺の違法駐輪問題に取り組んでいます。2010年度は、2009年度の学長見直しを受け、西千葉キャンパスの最寄り駅である西千葉駅周辺の駐輪問題を重点的に取り組みました。6月には違法駐輪問題の解決を図るために、千葉市・JR西千葉駅・千葉大学の教職員と学生が連携した体制づくりも整いました。2011年度も大学の環境目的・目標・実施計画に、西千葉駅と京成みどり台駅周辺の違法駐輪対策を進めることを盛り込み、引き続き活動を進めていきます。

駅周辺の違法駐輪の状況

近年、大学周辺における千葉大生による放置自転車・違法駐輪が悪化しています。とくに、キャンパスが駅前にあり、その面積が広い西千葉キャンパスにおいては、駅の有料駐輪場を使わずに、JR 西千葉駅と京成みどり台駅周辺に自転車を放置して、電車通学する学生や、駅周辺の飲食店を利用する学生が見られます。2010年1月から2月にかけて学生委員会が実施した調査（回答数 348）では、西千葉駅に用事がある学生の半数以上が、自転車を放置している状況が把握されました。

Q. 西千葉駅に用事のあるときどこに駐輪するか



駐輪マナー向上の取り組み

千葉大学では、2009年1月に、西千葉キャンパスで、千葉市の担当の方を招いて、自転車マナーを考えるシンポジウムを開催し、千葉大生と教職員との間で、校内での自転車の利用マナーに関する意見交換を行いました。

このシンポジウムをきっかけとして、学内外の駐輪マナー向上のための取り組みが具体的に進められました。2009年7月には、大学関係課の教職員と関連する学生団体からなる「自転車対策ワーキンググループ」が設置され、学生と教職員が合同で、大学周辺の違法駐輪の解決に向けた対策の検討を進めていきました。学生側は主に、駐輪状況の調査結果の分析・報告や、政策の具体的な中身を教職員と協議する形で関与しています。

駅周辺での違法駐輪対策の検討

2010年6月には、千葉市役所・JR西千葉駅・千葉大学・環境ISO学生委員会からなる「西千葉駅周辺放置自転車対策連絡協議会」を設置しました。連絡協議会では、それぞれの違法駐輪対策の取り組みについて情報交換が行われるとともに、環境ISO学生委員会からの違法駐輪対策の提案が行われました。

環境ISO学生委員会では、西千葉駅周辺の駐輪状況の調査や駐輪場管理者へのヒアリング調査を実施し、その調査結果を踏まえて、①違法駐輪が行われている場所に電磁ロック式の駐輪場を設置すること、②市営の駐輪場の空きスペースを大学が借り受けて学生に使ってもらうよう誘導すること、③自転車台数を減らすためのシェアサイクルを導入すること、という3つの対策を提案しました。

千葉大学では、違法駐輪問題への取り組みの中で築かれた地域社会との新たな関係を保ちつつ、京成みどり台駅前も含めて、大学最寄り駅周辺での違法駐輪問題解決へ向けて更なる取り組みを実施していきます。



西千葉駅前



コンビニ前



地域社会への情報発信

千葉大学では、地域社会に開かれたEMSの運用を目指す一環として、環境報告書やホームページによる情報公開を行っています。また、問い合わせや取材への対応を通して、地域社会への情報発信を行っています。

情報発信の強化

千葉大学の環境に関する取り組みは、千葉大学、環境ISO事務局、環境ISO学生委員会がそれぞれ運営する3つのホームページにより公開しています。

運営者	公開内容 (URL)
千葉大学	過去に刊行されてきた環境報告書 http://www.chiba-u.ac.jp/
環境ISO事務局	千葉大学のEMSの概要や環境マネジメントマニュアルなどのEMS関連文書 http://kankyo-iso.chiba-u.jp/
環境ISO学生委員会	学生が行っている活動やその実績紹介 http://env.chiba-univ.net/

報道録

千葉大学の環境に関する取り組みは対外的に高い注目を浴びています。2010度は主に新聞を中心とし、多くの報道で取り上げられました。

2010年6月30日 千葉日報	千葉大ISO学生委員会 [植樹を通して行う「緑のバトン」]
2010年7月5日 New York Times 2010年10月8日 The Globe and Mail	植物や公園が免疫力を高める (森林セラピーの効果について)
2010年9月7日 日刊工業新聞	千葉大学の「植物環境デザインニングプログラム」が日中韓の高度職業人育成事業に選定
2010年9月25日 千葉日報	国際デザイン賞「第5回ジェームズデザインアワード」千葉大学生グループが風力利用電気自動車で日本最優秀賞を受賞
2010年11月29日 産経新聞	環境負荷が少ない施設内での植物工場について
2010年12月21日 千葉日報	千葉大学環境ISO学生委員会「環境ラベル」についての出前授業
2011年1月11日 日刊工業新聞	緑化がもたらすストレス緩和を指標化、環境設計に応用
2011年1月22日 千葉日報	千葉大学環境ISO学生委員会「環境配慮型製品のサンプルを西千葉キャンパスで配付」
2011年2月7日 コアラテレビ デイリーニュース	千葉大学環境ISO学生委員会 「地球温暖化フォーラム in まつど」学生の取り組みを発表
2011年2月10日 朝日新聞	千葉大学法案作成講座「生物多様性オフセット法」案を作成
2011年2月21日 東京新聞	千葉大学環境ISO学生委員会「ヤングフェスティバル」にて環境紙芝居を上演
2011年2月23日 毎日新聞 2011年2月25日 東京新聞	教育学部附属特別支援学校生徒ら、地域住民と協働でゴミステーションや掲示板等を作る取組を進める
2011年2月27日 読売新聞	千葉大生が作った「36Wayの森」で地元の特産品や野菜を販売するイベントを開催
2011年2月28日 コアラテレビ デイリーニュース	千葉大学環境ISO学生委員会 緑豊かな街を目指して、地域住民へ向けた花の無料配布
2011年3月3日 日本経済新聞	「自然エネ自給率1位は大分」千葉大学公共研究センターら調査とりまとめ

構内事業者インタビュー 千葉大学生協 (ブックセンター)

環境へ配慮した取り組みとして、レジ袋の再利用やブックカバーのセルフサービスなどを行っています。レジ袋は他の書店の紙袋や生協のレジ袋を再利用しています。また、環境関連の本は古い本を新しい本に入れ換えるようにしています。2011年度は、東日本大震災を受けて、原子力関連の本を増やしました。主な利用者である千葉大生に読んでもらいたい本を入荷するようにしています。また、今後も継続して環境フェアなどを行っていききたいと思います。



ブックセンター 網島店長

地域との交流

千葉大学の環境への取り組みに対して地域の主体的な参加を促進するため、地区代表委員として自治会の方や市の職員の方に、各キャンパスの環境ISO実行委員会へ参加していただいています。また、各地区において、地域交流を目的としたイベントを活発に行っています。

実行委員会について

各地区で開催している環境ISO実行委員会(54ページ)に地域代表に委員として参加いただき、地域のご意見を伺っています。西千葉地区では、地元自治会連合会会長、亥鼻地区と松戸地区では地元市の方に、ご参加いただいています。

緑のバトン

環境ISO学生委員会は、2009年度より地域の小学校において植樹を行ってきました。2010年度は2009年度の植樹の際に行ったCO₂ダイエット宣言運動への参加によって得た苗木をもとに、千葉市立仁戸名小学校において植樹を行いました。

仁戸名小学校では植樹に加え、環境やエコ活動に関する授業を行い、環境に興味を持つきっかけを提供しました。また、仁戸名小学校でもCO₂ダイエット宣言を行い、今後も「緑のバトン」として植樹活動を繋げていく予定です。また、この活動は千葉日報にも報じられ、社会的にも評価を受けました。



植樹の様子

エコプロダクツ 2010

2010年12月9日～11日、東京ビックサイトにて、日本最大級の環境展示会であるエコプロダクツ2010が開催されました。あらゆる分野のエコプロダクツやサービスが一堂に集結し、700を超える企業、官公庁、NPO、NGO、大学・教育機関などが自組織の環境の取組を紹介しており、千葉大学も、環境ISO事務局として出展を行いました。また、ステージでは、「千葉大学の学生主体のEMSの運営」について学生がプレゼンテーションを行いました。

コミュニティガーデン

松戸地区では、月に1回の頻度でコミュニティガーデン活動を行っています。これは、松戸市からお借りした土地を利用して、地域の方と共に花などを植えて地域の緑化を図ると共に地域交流を深めていくことを目的としたものです。

2010年度は、7月に活動に参加している地域の方々との交流・懇親会としてバーベキューの開催、冬にはこれからのコミュニティガーデン活動のあり方などを話し合うきっかけとして、作業後に地域の方々も交えた反省会なども行いました。

また、2月には松戸駅と松戸キャンパスを花でつなげる「花回廊」計画の足がかりとして、地域の方に花苗等の配布を行いました。ここでは花苗・土・鉢のセットを50、花の種・土・鉢のセットを50用意し、2時間という限られた時間でしたが91セットを配布しました。



花壇整備による地域交流の様子



国際化への対応

千葉大学には約 1000 人もの留学生が在籍しています。2010 年度は、留学生対象の基礎研修やゴミの分別方法を紹介するイベントを通して、千葉大学の環境への取り組みに対する理解を深める活動を行いました。

留学生への基礎研修の実施

留学生も千葉大学の一員として環境保全に取り組むことが求められます。そのため千葉大学では留学生に対しても環境 ISO に関する基礎研修を行っています。

基礎研修では、出身の国や地域によって異なる環境意識を持つ学生に、千葉大学の環境への取り組みを説明し、協力をお願いしています。

留学生向けの基礎研修は、後期から入学する短期留学生のために 10 月にも行われます。研修の際には、英語と日本語の両方を用いて、自転車利用の規則などの学生生活に関する決まりを主に説明しています。また、千葉大学の EMS に関してより正しい理解を得るために、「学生が作るエコキャンパス」と「ECO BOOK2010」の英語版を作成し、配布しています。



留学生への基礎研修

留学生向けゴミ分別啓発キャンペーン

日本語習得状況の違いや文化の違いから、千葉大学の環境への取り組みが留学生に伝わらない場合もあります。特に千葉大学独自のごみ分別は留学生にうまく浸透していない状況にありました。

この状況を解消するため、2010 年度は 2009 年度に引き続き、留学生を対象とした正しいゴミ分別を啓発するイベントが開催されました。イベントの中では、分別の意義や千葉大学における分別の方法を日本語と英語で説明し、留学生の前でごみの分別の実演を行いました。また実施時期が 10 月下旬であったことから、大学祭でのゴミ分別についても説明し、特にリ・リパックについてはフィルムを剥がす作業を留学生に体験してもらいました。そして 2009 年同様、イベントの際には留学生にも理解できるように簡単な日本語を使用したパンフレットを作成し、留学生に説明の理解を深めてもらえるようにしました。

今後、留学生に千葉大学の環境への取り組みをさらに浸透させていくことに加え、留学生との相互理解を目指し、ともに参加できる形のイベントを検討していきます。

学生の声 ごみの分別について

私はジャカルタの出身です。ジャカルタでは以前、ごみを分別するシステムがなく、皆が同じところにごみを捨てていました。しかし、数年前から新たなごみの捨て方に關するシステムができ、生ごみとそうでないごみの 2 つに分別するようになりました。去年日本に来て、ごみの捨て方を学び、ルールを守らなければならないと思っています。ジャカルタと違って千葉はとてもきれいで、道や電車の中でもあまりごみを見たことがありません。それはやはり、日本人はごみを正しく捨てることを子どものころから両親に身につけさせられているからだろうと思います。



文学部:リャン・アディ・プトラ